

自動車・同付属品製造業における金属材料を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労働 者規 模
1	16～ 17	工場内で金型運搬後、作業台に金型を乗せる際に作業台と金型の間に手を挟み骨折した。	34	10～ 29
1	9～ 10	被災者はボデー課において車両ドアの納付運搬作業中、いつものようにライン上で完成したドア（約15kg）を工程から取り出し、台車へ積み込む作業でドアを持ち上げた際、右肩付近に痛みを感じた。	44	1000 ～ 9999
2	13～14	書棚を製作するため、作業台の上で溶接作業を行っていた。作業台の上で立ち上がろうとした際ふらついてバランスを崩し、製作していた鉄枠に手をついたが鉄枠が傾き作業台から鉄枠と共に落ち鉄枠に左足が挟まれた。	53	1000 ～ 9999
3	17～18	派遣労働者である本人は、就業場所であるプレス設備の近くで、容器に入っている1個当たり約1kg以下の材料5～10枚くらいを持ち上げ、別の専用容器に移し替える作業（以前から行われている標準作業）に従事していたが、仕事を休むようになり、後日に本人から、当該作業により腰部を負傷したと連絡を受けた。	55	100 ～ 299
3	11～12	当社第2工場内計量場において、改善活動で計量器の風よけ防止の為の鉄板を計量器が置かれている作業台の端に取り付けようとし、手袋をして鉄板（約6.3kg）を持ち上げていたところ、鉄板が手製から滑り落ち、足元の安全靴のカバーの端から少しずれた位置に鉄板の角が落下し、左足小指の付け根付近を骨折した。	58	50～ 99
4	19～ 20	2800トンプレスラインにて新規受注部品品質制度確認トライ実施中、不良品をラインサイドの作業台の上に山積みになっていた。荷崩れしそうになったためもう1名の作業者と二人で不良品を片付けようとした。しかし二人の呼吸が合わず不良品がバランスを崩し自分の足の上に崩れ落ちた。	41	100 ～ 299
		第1工場板金場にて、L型鋼材（22本、長さ6m）を専用台車を用いて搬送してい		1000

4	10～ 11	た（3人の共同作業）。その際、鋼材置場の入口が狭いため台車の切り返しを行った時に鋼材が専用台車の片側に寄り、台車のバランスが崩れて横転し、鋼材が作業者の両足膝下に乗って骨折した。	53	～ 9999
4	2～3	コイル材置場にて95mm幅のコイル材をホイスで運搬する為、チェーンをコイルに通そうとチェーンを下ろしコイル中央からチェーンを手で掴んだ時に、チェーンでコイル材が引っ張られて転倒し、転倒したコイル材と隣のコイル材の間に左腕を挟まれた。	47	100 ～ 299
6	18～ 19	段取り作業時に、溶接治具を棚に収容するためハンドリフターで治具を運び、45度回転した。その際、はみ出していた治具のクランプに足を引っ掛け転倒した。転倒時、右腕で身体を支えたため右腕全体に痺れと痛みが生じ、救急搬送され受診した。	38	50～ 99
6	13～ 14	第一工場内で、パンチングマシンの作業台に置いていた鉄板（厚さ2.3m、100mm×565mm、重さ1kg）20枚を両手で抱え、運んでいたところ、重さのあまりバランスを崩し、鉄板の一部が滑り落ちそうになり、慌てて両手で支えようとしたが支えきれず、鉄板約18枚が滑り落ち、その際に鉄板の角が左足先に当たり、負傷したものである。	33	50～ 99
6	16～ 17	NC旋盤JKTチューブ内径切削工程にて、通常加工時、ワークに絡んだ切粉をラジオープンチで除去する際に、内径切削にて発生した切粉の状態が細かく、長く伸びており、切粉が長いので全てを掴みきれず、引っ張った際に伸びた切粉に指が干渉し、切創した。	21	50～ 99
7	13～14	生産が終了した型を型置き場に下ろし型に掛けてあったワイヤーロープをフックより順次外しながら被災した型と隣の型の間に移動、次の型の移動に移ろうと操作鉤にてクレーンを南側へ移動のつもりが自分の立っている西側へ押し間違えてしまった。又、4本のワイヤーの内1本のワイヤーが外しきれていなかったため、型が西側へ移動した際作業者の左足が型と型の間に挟まり受傷した。	21	500 ～ 999
7	15～ 16	弊社第二工場のプレス作業中、成形に必要な材料を端材部分を手で持って引っ張る工程がある。その際に鋭利になっている部分を手でつかんで引っ張り作業を行ってしまったため、作業者が右手親指付け根に切傷を負った。	28	50～ 99

7	13～ 14	会社工場内において、スポット溶接機を使って、自動車部品（約1m30cm×25cm×5mm、2kg）を自動溶接していた際、溶接し終えた製品を機械から取り出そうと右手で製品を掴もうとしたところ、手が滑って製品が倒れてしまい、倒れた製品の角が左腕に当たって負傷した。	38	50～ 99
7	1～2	派遣先において自動車部品の製品を鑄造作業中、製品を金型から取り出した際、半固形だったため、溶けた材料が安全靴の中に入ってしまった、左足を火傷した。	19	30～ 49
7	11～ 12	トレーラフレーム組立定盤の上で、部品の錆取り作業中、部品の穴に指を入れて移動させたときに、定盤から部品がずり落ちて、左手人差し指を挟んでしまった。	28	10～ 29
7	9～ 10	鋼材（φ53、L5700mm、W96kg）を開束する際、使用途中の鋼材が転がり落ちない様にしようと、左手で支えながら右手で開束した。その際に、使用途中の鋼材が左手の上に落ち、搬送台と鋼材に薬指が挟まれ怪我をした。作業者は、開束の際は手を入れてはいけないと教育されていたが、事故のときは作業を進めようと焦っていて、手を出した。使用途中の鋼材も通常では後端に合せる決まりになっていたが、使用途中の材料の長さを後端に合せてしまうと、2点吊りクレーンの片側でしか吊れず、2点吊りのクレーンで安全に吊るために中心近くになっていた。	41	100 ～ 299
9	11～ 12	プレス作業場で、部品のプレスをしようと鉄板の材料8枚同時に持ち上げ台におこうとした時、手がすべり板の中部分がずれて、すべった鉄板のカドが左うでにあたってしまう負傷したものである。	52	10～ 29
9	13～ 14	NC旋盤機内に切粉が絡んだため、右手中指で手前に払って落とそうとしたが取れず、そのまま手前で引っ張ったため切傷した。	49	100 ～ 299
9	17～ 18	材料倉庫で、台車の上の材料を壁に立てかける作業中、アルミの丸棒の束約30kg（長さ3m、1本1.5kg×20本）をしゃがんで中腰で持ち上げようとしたとき、腰にグキッと激痛が走った。	33	10～ 29
	14～	リフトマンと2人で板パレットを運ぶ時、足元にあったH鋼に気づかず踏んでしま		100

9	15	い、そのはずみでH鋼が反転し右足に衝突、右足親指を骨折した。	39	～ 299
9	8～9	第2組立工場ユニットマウント工程にて作業中、フロントサスペンションを両腕で保持して押し上げながらハンガーに吊られた車両に取り付ける際、肩甲骨に痛みが走った。	26	1000 ～ 9999
10	4～5	第2工場において、作業終了時の途中で、手が滑り左手側面を切創した。 ケブラ手袋は持っていたが、作業時は皮手一枚で作業を行っていた。	21	100 ～ 299
10	16～ 17	翌日の段取りをするため金型をフォークリフトで取りに行った運搬途中金型が滑って落ちそうになったのでリフトを止めて手で金型（約1.5t）を動かそうとしたら逆に滑って手前に落ちてきた。 この時金型の下に手を入れていたので左手の指先を3本（一指し指・中指・薬指）挟まれた。	51	30～ 49
10	18～ 19	本社鑄造3号機において、鑄造された製品がコンベアから落ちていたので拾おうとしていたところ、もう1つの高温の製品が落ちてきて、左手の甲に当たり火傷した。	60	50～ 99
11	13～ 14	10枚ほど重なった状態で容器内に入っていた製品を両手で持ち上げた。 運搬する際、荷姿が悪いと判断し、荷姿を変えようと反転しようとした。 その際、重みで製品が斜めになり滑り、右手中指を切傷した。	58	100 ～ 299
11	11～ 12	第1塗装工場上塗りダスティング工程にて、車両のトランク内部のエアブロー作業を2名で実施していた。 作業終了のタイミングで共同作業員へトランクを下ろして良い旨の掛け声合図を行い、共同作業員がトランクを下ろした際、トランクとボディの間に右手小指を挟んだ。 外傷は無かったものの違和感を感じた為、後日病院を受診した。（16歳の時に複雑骨折によるボルト固定、17歳の時に伸びた筋を切断しワイヤーで繋ぐ手術を行っている。）	20	1000 ～ 9999
12	9～10	当社工場内にて、段取り作業中、プレス機にセットしてあったコンベアーを移動しようとコンベアーをのせていた台車を移動した時、コンベアーを安定させる為にのせてあった鉄の塊（重り）が台車から落ち、左足の甲に当たり負傷した（安全靴着用）。	32	50～ 99

12	8~9	金型補修場に金型（約150kg）を運搬台車に乗せて移動中、台車の車輪が引っ掛かり、台車から金型が滑り落ちた。その際、右足の上に金型が落ちて足首から甲にかけて被災した。	38	100 ~ 299
----	-----	---	----	-----------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html